

(12) JAPANESE UTILITY MODEL PUBLICATION (U)

(11) PUBLICATION NO. H06-86608

(43) Publication Date : December 20, 1994

(21) Application Serial No. H05-29355

5 (22) Filing Date : June 2, 1993

(71) Applicant : TAKASHIMAYA NIPPATSU KOGYO

(72) Inventor : AMANO (天野)

(54) Title of the Invention : HEADREST

10 PURPOSE :

To provide a headrest capable of closing an opening portion at which a stay can slide.

CONSTITUTION :

15 A headrest main body 1 comprises a stay 3, a pad 4, a skin 6 and flexible hard members 7, 7. The pad 4 has a groove 5 for receiving a top portion of the stay 3. The flexible hard members 7, 7 are stitched onto an inside of the skin 6 with which the pad 4 is covered. When the pad 4 is covered with the skin 6, the flexible hard members
20 7, 7 are inserted into the groove 5 and then the stay 3 is received into the groove 5 by passing through a space between the flexible hard members 7, 7. Under the above configuration, both surfaces of the groove 5 (an opening portion) are closed with the flexible hard members 7, 7 because the flexible hard members 7, 7 stitched onto
25 the inside of the skin 6 are inserted into the groove 5.

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11) 実用新案出願公開番号

実開平6-86608

(43) 公開日 平成6年(1994)12月20日

(51) Int.Cl.⁵

A 4 7 C 7/38

31/02

識別記号

庁内整理番号

8313-3K

F I

技術表示箇所

A

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 2 頁)

(21) 出願番号

実願平5-29355

(22) 出願日

平成5年(1993)6月2日

(71) 出願人 000169916

高島屋日発工業株式会社

愛知県豊田市大島町前畑1番地の1

(72) 考案者 天野 喜好

愛知県東加茂郡下山村花沢井ノ下12番地

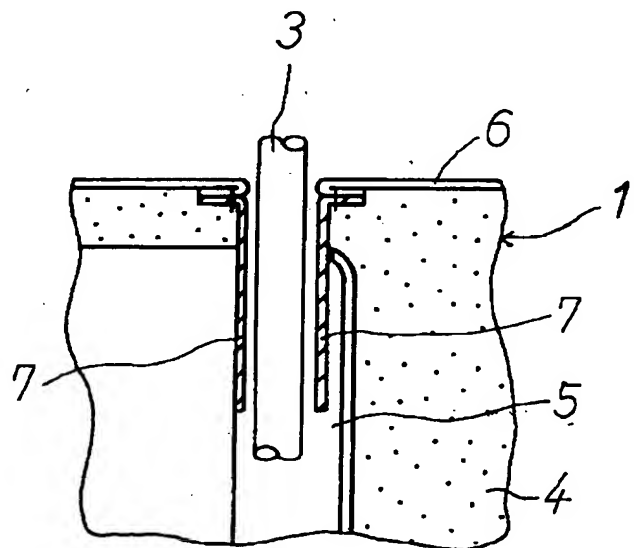
(74) 代理人 弁理士 名嶋 明郎 (外2名)

(54) 【考案の名称】 ヘッドレスト

(57) 【要約】

【目的】 別部材を使用することなくステー移動用の開口部の口開きを防止した体裁がよく、しかも危害防止用樹脂芯材を必要としない回転式のヘッドレストを提供すること。

【構成】 回転可能なヘッドレスト本体1のパッド材4にステー移動用の長溝5を形成し、その外周を覆う袋状表皮材6の内側に取り付けられた縦長の可撓性硬質芯材7をこの長溝5内に挿入することにより、開口部を保護する。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 ステア(3) に対して回転可能なヘッドレスト本体(1) のパッド材(4) にステア移動用の長溝(5) を形成するとともに、その外周を覆う袋状表皮材(6) の内側に取り付けられた縦長の可撓性硬質芯材(7) をパッド材(4) の長溝(5) 内に挿入したことを特徴とするヘッドレスト。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の第1の実施例を示す全体斜視図である。

【図2】 袋状表皮材の要部拡大斜視図である。

【図3】 図1のA-A断面図である。

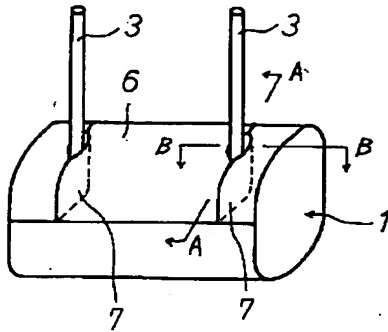
【図4】 図1のB-B断面図である。

【図5】 本考案の第2の実施例を示す図3と同様の断面図である。

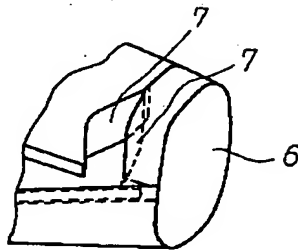
【符号の説明】

- 1 ヘッドレスト本体
- 3 ステア
- 4 パッド材
- 5 ステア移動用の長溝
- 6 袋状表皮材
- 7 縦長の可撓性硬質芯材

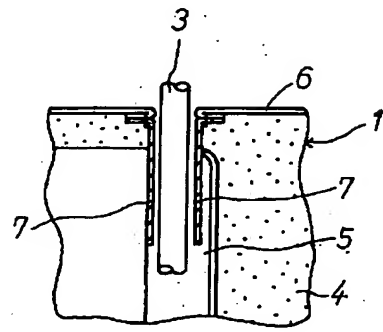
【図1】



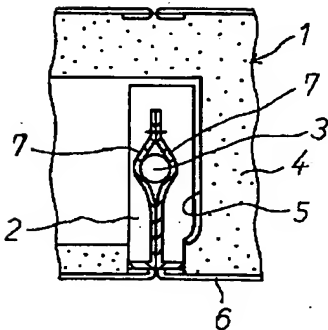
【図2】



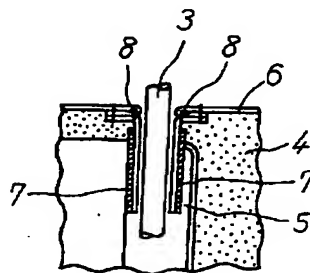
【図3】



【図4】



【図5】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本考案は、回転式のヘッドレストに関するものである。

【0002】

【従来の技術】

自動車用ヘッドレストは、ヘッドレスト本体とこれをシートバックに取り付けるためのステーとを備えたものであるが、回転式のヘッドレストではヘッドレスト本体をステーに対して回転可能とするために、ヘッドレスト本体にステー移動用の開口部が形成されている。

【0003】

従来、このようなヘッドレスト本体の開口部には、実開平2-61232号公報に示されるような樹脂性の補強部材が取り付けられたり、実開昭63-150600号公報に示されるような可撓性シートが取り付けられていた。しかし前者はヘッドレスト本体とは別部材を用いるために外観上体裁が悪いという問題があった。また後者はヘッドレスト本体の表皮材のズレにより口開きして内蔵物が見えたりすることがありやはり体裁が悪いうえ、インサートの危害防止用樹脂芯材を必要とする等の問題があった。

【0004】

【考案が解決しようとする課題】

本考案は上記した従来の問題点を解決して、別部材を使用する必要がなく、またステー移動用の開口部が口開きしないので体裁がよく、しかもインサートの危害防止用樹脂芯材を必要としないヘッドレストを提供するために完成されたものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】

上記の課題を解決するためになされた本考案は、ステーに対して回転可能なヘッドレスト本体のパッド材にステー移動用の長溝を形成するとともに、その外周を覆う袋状表皮材の内側に取り付けられた縦長の可撓性硬質芯材をパッド材の長

溝内に挿入したことを特徴とするものである。

【0006】

【作用】

本考案のヘッドレストは、袋状表皮材の内側に取り付けられた縦長の可撓性硬質芯材をパッド材のステー移動用の長溝内に挿入したものであるから、この可撓性硬質芯材によってステー移動用の開口部の両面がカバーされることがとなり、開口部が口開きして内蔵物が見えることがない。またヘッドレスト本体の外表面に別部材が露出することもなく、体裁のよいものとなる。しかもこの可撓性硬質芯材がステーを包むので、従来のような危害防止用樹脂芯材を必要としない利点がある。

【0007】

【実施例】

以下に本考案を図示の実施例によって更に詳細に説明する。

図1～図4は本考案の第1の実施例を示すもので、図1は全体斜視図、図2は袋状表皮材の要部拡大斜視図、図3は図1のA-A断面図、図4は図1のB-B断面図である。

これらの図中、1はヘッドレスト本体であり、ブラケット2に取り付けられたステー3とパッド材4とを備えている。このヘッドレスト本体1は図示を略した機構によりステー3に対して回転可能とされており、パッド材4にはステー移動用の長溝5が形成されている。

【0008】

図2に示すように、ヘッドレスト本体1のパッド材4の外周を覆う袋状表皮材6の内側には、縦長の可撓性硬質芯材7が縫着あるいは接着により取り付けられている。そして袋状表皮材6をヘッドレスト本体1に被せたときにこの可撓性硬質芯材7がパッド材4のステー移動用の長溝5の内側に挿入され、図3、図4の通りの状態となる。この可撓性硬質芯材7は図4に示すように2枚の板の両端を密着させたものであり、その内部にステー3を貫通させることができる構造となっている。

【0009】

図5は本考案の第2の実施例を示すもので、袋状表皮材6の可撓性硬質芯材7を取り付けた開口縁部に鋼線8を設け、補強効果を持たせている。

【0010】

このように構成された本考案のヘッドレストは、従来の回転式ヘッドレストと同様に使用されるものであるが、ヘッドレスト本体1のパッド材4に形成されたステア移動用の長溝5の内側に、袋状表皮材6の内側に取り付けられた縦長の可撓性硬質芯材7を挿入したものであるから、この縦長の可撓性硬質芯材7によって開口部の両面がカバーされることとなり、開口部が口開きして内蔵物が見えることがない。

【0011】

またこの可撓性硬質芯材7は袋状表皮材6の内側に取り付けられているので、従来のようにヘッドレスト本体1の外表面に別部材が露出することもなく、体裁のよいものとなる。しかもこの可撓性硬質芯材7がステア3を両側から包むので、従来のような危害防止用樹脂芯材を必要としない。特に第2の実施例のように鋼線8等により開口縁部を補強しておけば、より確実に開口を防止することができる。

【0012】

【考案の効果】

以上に説明したように、本考案のヘッドレストは袋状表皮材の内側に取り付けられた縦長の可撓性硬質芯材をパッド材のステア移動用の長溝内に挿入することにより、別部材を使用することなくステア移動用の開口部の口開きを防止でき体裁を向上させることができる。しかも本考案のヘッドレストは縦長の可撓性硬質芯材がステアを包むので、従来のような危害防止用樹脂芯材を必要としない利点もある。よって本考案は従来の問題点を解消したヘッドレストとして、その実用的価値はきわめて大きいものがある。